

## 学会録事

### 1. 日本藻類学会第25回大会報告

#### (1) 日本藻類学会第25回大会

上記大会を2001年3月27日-29日、日本歯科大学歯学部（東京都千代田区）において開催した。大会会長は小宮定志氏（日本歯科大学）で、参加者254名、講演数は75題（うち展示発表は26題）におよんだ。

大会1日目の午前に編集委員会、午後には公開シンポジウムおよび評議員会が本館および3号館九段ホールで開かれた。大会2日目は午前A,B両会場にわかれて一般講演がおこなわれ、午後は展示発表に続きA会場で総会を開催した。そして夕刻から大神宮マツヤサロンで懇親会をおこなった。懇親会にふさわしい落ち着いた雰囲気のある会場の中、大変和やかにおこなわれた。懇親会参加者は175名であった。また3日目は終日一般講演がおこなわれた。大会の運営に当たっては、日本歯科大学の小宮定志大会会長をはじめ、南雲保氏、長田敬五氏、また東京水産大の田中次郎氏および研究室の学生諸氏、施設を提供していただいた日本歯科大学、古屋英毅歯学部長ほか多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

#### (2) 第25回大会参加者名簿

青木春美, 青葉孝昭, 秋岡英承, 鰐坂哲朗, 足立浩一, 阿野田由紀, 阿部真比古, 阿部泰夫, 阿部信一郎, 荒川正志, 有賀祐勝, 飯田勇次, 飯田高大, 飯間雅文, 石川依久子, 石崎英夫, 石橋明子, 石樋由香, 石本加代, 磯部美由紀, 板倉茂, 市川雄三, 市川薫, 市村輝宜, 出井雅彦, 井手美幸, 伊藤隆道, 伊藤直子, 伊藤洋介, 稲葉茂, 稲葉智弘, 井上勲, 今井敏夫, 今井一郎, 岩尾豊紀, 岩崎順, 岩滝光儀, 上野雄介, 鶴澤聡, 内田滋, 内田悟, 内田学, 内村真之, 上井進也, 江端弘樹, 恵良田真由美, 大越昌子, 大島海一, 大城香, 大城香, 大谷修司, 大野正夫, 岡直宏, 岡崎恵視, 岡進也, 押方和広, 岡本典子, 小川實, 玉政, 奥村宏征, 奥村裕, 長田敬五, 小澤泰斗, 小野寺弥生, 小幡年弘, 帯津直彦, 垣田浩孝, 梶川牧子, 菓子野康浩, 片岡博尚, 片山舒康, 勝又和人, 加藤亜記, 加藤季夫, 金井塚恭裕, 神澤耕平, 鴨下

美和, 川井浩史, 川上智美, 川崎俊一, 川嶋昭二, 河津かおり, 河地正伸, 巖興洪, 菅野治虫, 菊池則雄, 北山太樹, 金聖浩, 琴然心, 季, 金高卓二, 工藤創, 倉島彰, 栗山あすか, 桑野和可, 小林敦, 小堀陽子, 小宮定志, 近藤貴靖, 齋藤誠一, 齋藤順子, 齋藤宗勝, 坂口元宏, 坂田昌彦, 坂西芳彦, 阪部舞, 坂山英俊, 笹岡晃征, 佐々木秀明, 佐藤真奈美, 佐藤晋也, 佐藤征弥, Sang-Hee, Lee, 塩野目亜紀, 柴田さやか, 篤田智, 清水響子, 下埜敬紀, 小善圭一, 白瀬俊臣, 菅原洋子, 杉原靖之, 洲澤多美枝, 鈴木秀和, 須田彰一郎, 須谷昌之, 関口弘志, 芹澤如此古, 高野敬志, 高橋史明, 高橋昭善, 高橋永治, 高橋文雄, 高橋ゆう子, 滝尾進, 竹下俊治, 竹田修一, 田中厚子, 田中和弘, 田中貞子, 田中梢子, 田中次郎, 田中敏博, 田中博, 田中宏之, 谷藤吾朗, 種倉俊之, 玉井貴夫, 千原光雄, 土屋英夫, 都木靖彰, Dian Hendrayanti, 寺阪隆, 豊田健介, 長里千香子, 中沢敦, 中島直子, 長島秀行, 中島宏, 中嶋泰, 中原美保, 中村絵里, 中村恵理子, 中村薫, 山中理央, 中山剛, 南雲保, 西村巖, 野崎久義, 能登谷正浩, 野呂忠秀, 長谷川和清, 幡野恭子, 羽生田岳昭, 馬場将輔, 濱田仁, 林田文郎, 原慶明, 半澤直人, 半田信司, 比嘉敦, 菱沼佑, 平岡雅規, 平松勝晃, 深谷幸子, 福田恵, 福田廣一, 福本晃祐, 藤井理香, 藤田大介, 藤田善彦, 古澤剛, 古屋英毅, 保科亮, 細井利男, 堀口健雄, 堀輝三, 本多大輔, 本多正樹, 前川行幸, 松岡聡, 松岡數充, 松村航, 松本里子, 松本正喜, 松山和世, 真山茂樹, 水野真, 溝口亨, 御園生拓, 峯一朗, 宮沢俊哉, 宮地和幸, 宮下英明, 宮下衛, 宮下千佳子, 宮地由紀, 宮村剛志, 宮村新一, 宗方嘉浩, 村岡大祐, 村上裕重, 村上明男, 村瀬昇, 松村知明, 村山英夫, Moat War Dinenaw, 望月利彦, 本村泰三, 森田晃夫, 守屋秀泰, 守屋真由美, 諸見里聡, 柳沢幸夫, 矢野友美, 矢部和夫, 山岸高旺, 山岸美香子, 山口峰生, 山本恭平, 湯浅美奈子, 横浜康継, 横山亜紀子, 横山林香, 吉井幸恵, 吉澤一家, 吉武佐紀子, 吉田吾郎, 吉永郁生, 吉松定昭, 四ツ柳敬, 渡辺信, 渡辺誠, 渡辺眞之。

### (3) 編集委員会・評議員会

3月27日に日本歯科大学歯学部本館4階第3会議室において開催された。編集委員会は当日午前中に英文誌編集委員会および和文誌編集委員会を合同で行った。和文誌について田中編集委員長より第48, 49巻「藻類」の編集状況に関する報告などがあった。また委員の中から現在の活字の大型化やA4版化の提案があり、今後出版費用等も勘案しながら検討することになった。英文誌については本村編集長から「Phycological Research」の編集状況および年間投稿状況、オンラインジャーナル化に関する報告などがあった。さらに同誌に対する科学研究費補助金を今後も維持するためには、より国際情報発信としての役割を高め外国人購読者数を増やしていく必要がある、その一環として2001年度より外国人編集委員を1名増したことが述べられた。

評議員会は公開シンポジウム終了後に同第3会議室において開催され、2001年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。内容に関しては総会の項を参照されたい。合同編集委員会・評議員会開催にあたっては小宮定志氏を始めとする日本歯科大学歯学部の関係諸氏に大変便宜を払っていただいた。記してお礼申し上げます。

### (4) 2001年度総会

2001年3月28日の展示発表終了後、日本歯科大学本館3階会場にて総会を開催した。原慶明会長の挨拶の後、岡崎恵視氏(東京学芸大学)を議長に選出して総会の議事に入った。

#### 【報告事項】

##### ●庶務関係

(1) 会員状況(2000年12月31日現在):名誉会員3名, 普通会員614名, 学生会員81名, 団体会員58名, 賛助会員13名, 外国会員122名(33カ国), 国内購読33件。(2) 2000年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は1,800,000円であった。(3) 第24回大会を2000年3月28日～31日に長崎大学環境科学部にて開催した。(4) 評議員会を2000年3月28日に、総会を翌29日にそれぞれ長崎大学環境科学部全学教育事務棟, 全学教育棟にて開催した。(5) 秋季シンポジウム「21世紀における海藻の研究と利用」を10月27日, 学士会館にて開催した(詳細は「藻類」48巻3号, 49巻1号

を参照のこと)。(6) 第3回日本藻類学会論文賞を授与(安倍, 増田, 鈴木, 鈴木の各氏)した。(7) 第4回マリンバイオテクノロジー学会(5月20, 21日, 香川県民ホール)に協賛した。(8) 日本植物学会第64回大会で藻類関係のシンポジウム「葉緑体-細胞内共生体としての動態を藻類に探る」(責任者: 川井氏, 堀口氏)を開催した。(9) 2001・2002年度会長・評議員選挙を行った。

##### ●会計関係

(1) 2000年3月11日現在の会費納入率は、一般会員96%, 学生会員83%, 賛助会員77%, 団体会員47%, 外国会員96%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

##### ●編集関係

(1) 2000年度に発行した和文誌「藻類」第48巻1～3号は、総頁数271頁。内訳は原著論文・短報4編, 総説1編, 研究技術紹介1編, その他。(2) 2000年度に発行した英文誌「Phycological Research」第48巻1～4号は、総頁数301, 掲載論文36編であった。

##### ●APPA(Asia Pacific Phycological Association)とAlgae 2002について

本年6月下旬に山形大学で開催されるAPPA運営会議およびシンポジウムの準備状況, 実施内容などについて原慶明氏(山形大)から報告があった。また、2002年度につくば地区で開催されるAlgae2002(日本藻類学会創立50周年事業・第26回日本藻類学会大会・アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議)の準備状況について、井上勲氏(筑波大)から報告があった。これらの内容の詳細については49巻1号の学会録事を参照されたい。

#### 【審議事項】

##### ●庶務関係

(1) 以下の2001年事業計画が承認された: 1) 第25回大会・評議員会・総会(日本歯科大学)と公開シンポジウムの開催, 2) 第4回日本藻類学会論文賞の授与と第5回論文賞の選考, 3) 和文誌「藻類」49巻1～3号の発行, 4) 英文誌「Phycological Research」49巻1～4号の発行, 5) 秋季シンポジウムの開催, 世話人大野正夫氏, 6) 第5回マリンバイオテクノロジー学会(マリンバイオ静岡2001)の協賛, 7) アジア太平洋藻類学連合シンポジウム(山形)の共催, 8) 日本植物学会65回大会(東京)時の藻類関係シンポジウムの企画,

9) 日本植物学会 65 回大会(東京)時の植物分類学関連学会連絡会主催のシンポジウムへの参画

(2) 2002 年以降の「Phycological Research」の出版契約：編集および英文校閲の質の高さ等から、大幅な契約内容の変更がなければ Blackwell 社との継続契約を事務局一任として進めることが承認された。

(3) 2003 年の日本藻類学会大会：三重地区で開催し、そのお世話を天野秀臣氏にお願いすることが承認された。

(4) 日本藻類学会 50 周年記念事業 (2002 年)：準備委員会委員長堀口氏 (北大) からその事業内容が答申され、大枠で承認された (答申内容については下記の事項を参照)。

(5) 決議機関としての総会の位置づけと総会時以外の緊急議決方法について審議されたが、持ち回り評議員会でさらに審議することとなった。

(6) 世界中の生物多様性の関するデータの編集、リンク化の実施、調整を行う国際的な調整組織である GBIF (地球規模生物多様性情報機構) の国内協力機関からのアンケートに協力するため、学会員のメールアドレスを提供することについて審議され、承認された。

(7) 第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議からの後援依頼について審議し、承認された。

(8) 日本藻類学会は日本学術会議第 18 期学術団体として登録されているが、2002 年の 5 月頃に第 19 期学術団体登録の手続きが開始される可能性があり、その際の手続きについては事務局に一任することで承認された。

#### ● 会計関係

(1) 2000 年度一般会計決算報告および同監査報告は表 1 の通り承認された。

(2) 2000 年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表 2 の通り承認された。

(3) 2001 年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表 3 および表 4 の通り承認された。

#### ● 日本藻類学会 50 周年記念事業について

ここには日本藻類学会創立 50 周年記念事業実行委員会の答申の基本的考え方、概要、主な行事を掲載するとともに、詳細に関しては今後別途お知らせする予定である。

(1) 50 周年記念事業に関する基本的考え方

記念行事では日本藻類学会 50 年の歩みに対し、会の発展に努力された先人諸氏の業績を振り返り、そのご努力に感謝の意を表するとともに、今後の学会のあり方とその方向性も示したいと考えた。このため、ネット利用を中心とした学会の財産としての知的データベースの構築、若手学会員の発言の場の確保ならびに中高生・一般への啓蒙の 3 点を中心とした行事内容からなる。もちろん会員諸氏がこの記念すべき行事に参画し、楽しむことも重要な点である。

#### (2) 概要

日本藻類学会創設 50 周年を記念して以下の行事・事業をおこなう。なお、行事・事業は 2002 年 7 月つくば地区で開催の第 3 回アジア太平洋藻類フォーラムと合同で行われる藻類学会第 26 回大会 (Algae2002) の当日に実施されるものと、それ以外の期間に実施するものに分けられる。50 周年事業に関してはその費用は、会員および賛同者からの任意の寄付によるが、募金に関しては APPF 開催に関する募金と共同でおこなうこととする。記念事業の予定内容は以下のものである。

##### 1) Algae2002 の当日行事

1. 50 周年記念講演会、2. 50 年会員の表彰、3. 中・高校生研究グループ (招待) の発表の場の提供、4. 記念祝賀パーティー、5. 話題性のあるシンポジウムの企画

※ 2. 表彰は入会 (設立) 以来 50 年間、会員として会を支えてきてくださった会員に感謝の意を表すためにおこなう。なお、50 年会員表彰はこれ以後も継続することが検討されている。

※ 3. 藻類の研究をおこなっている中・高校生グループを招待し、ポスター発表をしてもらい、彼らに会員ならびにアジア太平洋藻類フォーラムの参加者との交流の場を提供することが狙いである。

##### 2) 50 周年記念行事 (当日以外)

1. ふれあいサイエンスキャンプ、2. 市民向けの講演ならびに藻類アピールのための展示

##### 3) グッズ作製、情報発信、出版など

1. 藻類グッズの作製と販売、2. 現代藻類学用語解説集、3. 「藻類」[Phycological Research] インデックス、4. インターネット海藻 (藻類) 図鑑 (会員参加型データベース構築)、5. 和文誌「藻類」上での企画 - 50 周年記念講演内容掲載。藻類学会若手会員の学会に対する抱負など自由な発言の場を

設ける。

※1. 企画責任者は南雲保氏（日本歯科大）、

※2. 企画責任者は堀輝三氏（筑波大）と大野正夫氏（高知大）とし、諸氏より快諾を得ている。インターネットにアクセスできない会員、および希望者のために製本した冊子体を用意し、実費で販売する。

50周年行事・事業に関するご意見、お問い合わせは、堀口健雄 (horig@sci.hokudai.ac.jp, 〒060-0810 札幌市北区北10西8, 北大・理学研究科) までお願いいたします。

### 【日本藻類学会論文賞授与】

第4回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは2000年度に出版された「藻類」および「Phycological Research」の中から、規定により審査員の投票によって選ばれたもので、総会前日に開催された編集委員会および評議員会で了承を受けたものである。今回の投票では、最高得票数を得た以下の論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Genetic analysis of artificial pigmentation mutants in *Porphyra yezoensis* Ueda (Bangiales, Rhodophyta) (受賞者: Xing-Hong Yan 氏, 有賀祐勝氏)。

## 2. その他の報告

(1) 植物分類学関連学会連絡会第13回会議報告  
表記の第13回会議が2001年3月26日に岐阜大学で開催された。藻類学会からは菱沼佐庶務幹事が出席した。代表が出席した他の学会は地衣類研究会、種生物学会、植物分類地理学会、日本シダ学会、日本植物分類学会、日本蘚苔類学会であった。会議では以下の議題について話し合われた。

1) 秋の植物学会大会での連絡会企画のシンポジウムは「海外学術調査の成果と課題」(仮題)のタイトルで企画することになり、シンポジウムの代表担当者は原田氏(地衣)とし、永益氏(分類地理)と井上氏(分類)がサポートすることとなった。(なお、藻類学会では平成13年4月20日に開催された持ち回り評議員会の議を経て、田中次郎氏(東水大)に講演をお願いすることとなった)。

2) 次回共同名簿発行について話し合わせ、前回と同様の方式・費用分担で2回目の共同名簿を作成することになった。各連絡会担当者が9月末ま

でに名簿を集め、12月に発行する予定である。藻類学会においては、前回同様希望者のみとし、25回藻類学会大会会場で希望者を募った。(なお、藻類学会大会に出席されなかった学会員の方で、共同名簿への掲載を希望する方は庶務幹事の菱沼までご連絡いただければ用紙を送付いたします。)

3) 連絡会として、平成13年度の科件費基盤研究(C)に「分類学関連学会の連携に基づく生物多様性共同基礎研究の推進」というタイトルで申請したことが報告された。

4) 岩槻氏より協力要請のあったGBIF (Global Biodiversity Information Facility) のアンケートについて説明があり、植物分類学会などは既に協力することを決定しており、他の学会のものも協力を働きかけることになった。

5) 日本動物分類学会関連学会連合の活動についての簡単な説明があり、現在まで同連合からの働きかけはないことから、今後も同連合情報を収集しながら対応していくことになった。

6) 2004年IAPT (International Association of Plant Taxonomy) シンポジウムの日本開催について、IAPTから日本植物分類学会に開催要請の打診があり、日本植物分類学会としては前向きに取り組む意向であることが報告された。日本植物分類学会としてはシンポジウムを分類学連絡会に参加している学会との共同開催を希望しており、各学会において共同開催の可能性について検討していたきたい旨の発言があった。

7) 日本植物分類学会と植物分類地理学会の統合に向けての解散がそれぞれの本年度総会において可決され、京都大学で5月12、13日に新学会設立総会と設立シンポジウムを開催することが報告された。

最後に次回会議を秋の植物学会大会(駒場)の期間中に持つことが合意された。

(2) 平成13年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊物」の「Phycological Research」への交付内定について

昨年申請した上記促進費について1,900,000円の内定通知があった。

(3) 持ち回り評議員会(平成13年4月20日開催)報告

1) 「国際藻類センター」設立申請に日本藻類学

会の名称借用(石川依久子元学会長)の件を承認した。

2) 会務の議決に関する会則改正の文案は事務局の提案(以下参照)どおり承認された。

提案: 会則第10条の後に「なお、会務に議決を要する場合は総会がそれを行う。」

また総会と総会の間に緊急の会務議決が生じたときは持ち回り評議員会が代行し、次の総会で事後承認を受ける旨、総会時に確認する。

3) International Association of Plant Taxonomy (IAPT) 日本開催(アジア地区代表)の国際会議に協力・参加要請があった件について、本学会は協力・参加することとし、具体的な対応は事務局、検討事項は評議員会に諮ることで承認された。

4) 会長選挙における評議員会の候補者推薦に関する申し合わせ事項は以下のように承認された。

評議員会は会長候補を推薦するにあたり、候補者3名連記で投票し、上位5名を順位をつけずに推薦する。候補者を推薦する前に各候補者に推薦する旨、了解を得ることとし、拒否する候補者が3名以上の場合は評議会として候補者の推薦を見送る。

5) 日本植物学会第65回大会(東京・駒場)時に開催される日本植物分類学関連学会連絡会主催「海外学術調査に関するシンポジウム(仮題)」へ

の日本藻類学会からの講演者推薦は事務局一任で承認された。後日、本人の了解を得て田中次郎氏(東水大)を推薦した。

また同大会時に開催する日本藻類学会主催のシンポジウムの企画・立案を奥田一雄氏(高知大)に再度依頼し、承諾を得た。奥田氏より、「細胞外被」に関する最近の話題を中心に、大会準備委員会に申し込んだ旨の報告を受けた。

(4) 秋季シンポジウムについて

本年3月の総会で大野正夫氏(高知大)にお世話いただき秋季シンポジウムを開催することが承認されたが、その後「海藻由来の機能性成分の研究と利用の展望」をテーマに11月16日ロイヤルパークホテル(東京・日本橋)で開催することが決まった。

(5) Phycological Research オンライン閲覧について

オンライン閲覧システムのトラブル等により、本誌への閲覧マニュアルの掲載をひかえていた。この度閲覧マニュアルどおりに登録することにより、本システムが問題なく動作することが確認され、閲覧マニュアルを掲載する運びとなったので以下にその方法を示す。なお、本マニュアルの作成にあたられた宮村新一前庶務幹事に感謝する。

## ご投稿のお誘い

藻に関する様々な分野からの記事をお寄せ下さい。原著論文に限りません。特定の地域に関する身近な話題も大いに歓迎します。読者諸氏の意見や知見が反映される誌面作りを目指しております。

和文誌編集委員会より

## Phycological Research オンライン閲覧方法

日本藻類学会はBlackwell Science Asiaの協力により、会員の皆様にはPhycological Researchの全論文をBlackwellのオンライン閲覧サービスであるBlackwell Synergy上でご覧いただけるようオンライン化しました。現在1999/2000年発行の論文がオンライン上でご利用可能ですので、是非お試しください。

Phycological Researchのオンライン閲覧にはBlackwell Synergyへの登録が必要です。下記のStep1, Step2に従って、個人登録、会員特別登録を行ってください。登録完了後はStep3に従ってご利用ください。なお、Step1, Step2の登録手続き完了後のご利用は、Step3の登録確認のためのUsername/Password入力のみが必要となりますので、Step1, Step2の作業は不要です。

また、Synergyご登録後もPhycological Researchの印刷紙面版は従来通りお手元に届きます。

### Step1: Synergy サービスへの新規登録

\* オンライン閲覧にあたり、まず、個人登録が必要です。<http://www.blackwell-synergy.com/>のアドレスを入力し、blackwellのsynergy homepageを表示します。画面左下にある'Register Now for FREE'をクリックするとRegistrationの画面がでます。<http://www.blackwell-synergy.com/>のアドレスを入力すると、図書館などで購入しているList of Journalsの画面がでることがありますが、この場合は、画面右下の'Register'をクリックします。Registrationの画面が表示されます。画面に表示されたメッセージにしたがい、First Name, Last Name, E-mail address, Username, Passwordを入力し個人登録を行います。ここで登録するUsername/Passwordは会員個人でご自由に設定いただいて結構です。しかし、以降のご利用時には常に必要となりますので、入力されたUsername/Passwordは控えをとって覚えておいてください。登録後、'Next'をクリックし、2ページへ進みます。\* 2ページも前ページと同様に、Phone, Street, City/Town, Post/Zip Codeなど、必要な事項を入力し、'Next'をクリックし、3ページへ進みます。3ページは'Registration Confirmed'のページです。右上パネルの'Your Homepage'をクリックします。\* Login画面が出ますので、そこで最初に登録し

たUsername/Passwordを入力し'Login'をクリックしますと、それぞれの会員のYour Homepageが開きます。

### Step2: 会員特別登録

\* ここからは会員だけの特別登録です。この登録は一度だけ手続きをします。

\* 'Your Homepage'のページに出ている'Access'と表示してあるところをクリックします。

\* 下段の'Your Synergy Offer Code'にJSPと入力し、'Continue'をクリックします。Phycological Researchと書かれたSociety Offer Registrationの画面が表示されます。

\* 'Surname'に全て英大文字で会員の姓(日本藻類学会に登録してある会員の姓、会員名簿に載っています)を入力します。(例: MIYAMURA)

\* 'Member ID'に会員番号を入力します。会員番号は「Phycological Research」,および「藻類」の入った封筒の宛名ラベル右下に印刷してあります(例: 0001)

\* 'Continue'をクリックします。

\* Phycological Researchをクリックして閲覧ください。Phycological Research掲載論文のAbstract, Full Text, PDFがご覧になれますが、PDFをご覧になるにはAdobe Acrobat Readerが必要です。<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.html>からダウンロードしてください。

### Step3: 登録時以降のご利用

\* <http://www.blackwell-synergy.com>をアドレス入力し、直接SynergyのHomepageを開きます。

\* Home page画面の右側にある'Registered User Login'にStep1で各個人が登録したUsername/Passwordを入力します。

\* 'Login'をクリックします。

\* 'Your Homepage'の画面になります。

\* Phycological Researchをクリックして閲覧ください。

何らかの問題が生じた場合は日本藻類学会ホームページ(<http://www.kurcis.kobe-u.ac.jp/sourui/>)でお知らせします。

ご質問・お問い合わせ: 菱沼 佑 (日本藻類学会庶務幹事) または 本村 泰三 (Phycological Research編集委員長)

表1-1. 2000年度一般会計決算(2000.1.1-2000.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	6,711,420	和文誌印刷・発送費	2,307,064
普通会員	4,545,000	印刷代	1,592,679
学生会員	295,880	別刷代	442,680
外国会員	524,100	発送費	271,705
団体会員	878,000	英文誌印刷・発送費	5,752,700
賛助会員	468,440	編集費	267,185
販 売	264,250	編集補助費	36,827
定期購読	238,950	通信補助費	168,035
バックナンバー	25,300	事務用品費	62,323
別刷代	354,200	庶務費	311,175
超過頁負担代	624,000	事務用品費	81,501
広告代	160,000	会議費	50,000
受取利息	2,997	通信印刷費	161,794
文部省刊行助成金	1,800,000	諸雑費	17,880
雑収入	3,520	事務補助	22,000
寄付金	160,000	第24回大会補助費	120,000
小 計	10,080,387	秋期シンポジウム補助費	50,000
前年度繰越金	7,422,191	自然史学会連合分担金	20,000
合 計	17,502,578	小 計	8,850,124
		合 計	17,502,578

表1-2. 2000年度一般会計貸借対照表

貸 方 (円)		借 方 (円)	
普通預金(常陽銀行, 天久保)	5,001,112	未払金	548,016
普通預金(常陽銀行, 学園都市)	1,819,478	前受会費	2,378,000
普通預金(関東銀行, 学園都市)	31,360	次期繰越金	8,652,454
郵便口座(つくば1)	932,450	前年度繰越金	7,422,191
郵便口座(つくば2)	3,407,500	当期余剰金	1,230,263
現金(つくば)	123,420		
未回収金	263,150		
合 計	11,578,470	合 計	11,578,470

表2-1. 2000年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2000.1.1-2000.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	4,687	論文賞用雑費	3,755
小 計	4,687	小 計	3,755
前年度繰越金	2,597,333	次年度繰越金	2,598,265
合 計	2,602,020	合 計	2,602,020

表 2-2. 2000 年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表

貸 方 (円)		借 方 (円)	
定期預金 (住友, 京都)	1,900,000	次年度繰越金	2,598,265
普通預金 (住友, 京都)	692,208	前年度繰越金	2,597,333
現金 (つくば)	6,057	当期余剰金	932
合 計	2,598,265	合 計	2,598,265

日本藻類学会 2000 年度決算報告書に対し記名捺印する。

2001 年 3 月 23 日 会長 堀輝三, 会計監事 中山剛

決算書が適正であることを認める。

2001 年 3 月 23 日 会計監査 渡辺眞之, 北山太樹

表 3. 2001 年度一般会計予算案 (2001.1.1-2001.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会 費	6,002,000	和文誌印刷・発送費	2,350,000
普通会員	4,056,000	印刷代	1,600,000
学生会員	260,000	別刷代	450,000
外国会員	576,000	発送費	300,000
団体会員	780,000	英文誌印刷・発送費	6,000,000
賛助会員	330,000	編集費	450,000
販 売	300,000	編集補助費	50,000
定期購読	250,000	通信補助費	200,000
バックナンバー	50,000	事務用品費	100,000
別刷代	300,000	庶務費	500,000
超過頁負担代	0	事務用品費	280,000
広告代	160,000	会議費	50,000
受取利息	3,000	通信印刷費	120,000
文部省刊行助成金	1,800,000	諸雑費	50,000
文部省公開講座助成金	600,000	事務補助	20,000
雑収入	2,000	幹事旅費補助	100,000
寄付金	50,000	第 25 回大会補助費	120,000
		公開シンポジウム補助費	600,000
		秋期シンポジウム補助費	50,000
		APPA シンポジウム補助費	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小 計	9,217,000	小 計	10,260,000
前年度繰越金	8,652,454	次年度繰越金	7,609,454
合 計	17,869,454	合 計	17,869,454

表 4. 2001 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算案(2001.1.1 - 2001.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	4,000	論文賞用雑費	3,000
小 計	4,000	小 計	3,000
前年度繰越金	2,598,265	次年度繰越金	2,599,265
合 計	2,602,265	合 計	2,602,265



会 員 移 動





## 表紙の写真説明

真ん丸い羽状類珪藻の *Navicula pseudoscutiformis* Hustedt の透過電子顕微鏡（左）と走査電子顕微鏡写真（右）。直径  $10\ \mu\text{m}$  程度で、小型の種である。  
（出井雅彦・南雲保，ちょっと珍しい珪藻2種について，本誌 142 頁参照）

